

大学と地域の連携・社会貢献に関する一考察 ～参加学生の意識調査から～

篠 政 行*

One Consideration About a University and the Local Cooperation, Contribution to Society

Masayuki SHINO*

要約

本学は、これまでさまざまなボランティアやインターシップ等の活動をととして地域と連携を図ってきた。映像コミュニケーション学科では、中でも視覚デザインを切り口に地域自治体や企業と協力して地域活性化の取り組みを2004年から行ってきた。参加した学生がこれらの活動に参加することによって、地域や社会への理解を高め、社会とのつながりの意識を持つことやそこで活躍する人材育成を目標に取り組んできた。

本報告ではその活動（プロジェクト）事例と活動に参加した学生の意識調査から、地域連携や社会貢献の問題点を指摘した。

1. はじめに

社会に貢献する人材の育成を目的として、本学は学生のボランティア活動を促す取り組みを進めてきた。具体的には地元稲城市と協力して、教育・清掃・介護等のボランティア活動、あるいは市役所や企業でのインターンシップなどである。また、学科の特長を生かした近隣保育施設での人形劇の公演活動や小学校での教育補助ボランティアの派遣、ベンチをデザイン・制作し、市に寄贈するなどの活動も行ってきた。

映像コミュニケーション学科では、学科で学んでいる視覚デザイン的分野の特長を活かし映像やポスター、チラシなどのメディア制作を行い、広報活動に寄与してきた。具体的には「3. 活動（プロジェクト）事例」に記述した。

2. 本調査の目的

本調査は地域の地域自治体と住民とをつなぐ中間支援センター的な役割を大学が担うことにより、そのエントリーポイントとなる場に学生を参加させ、学生個人の問題意識が変化するステップアップポイントを経験させてきた。具体的にはそれを経験した人間（学生）が地域とのかかわりもったときに、どのような問題点があるのかについて調査した。

2. -1) 稲城市の現状

稲城市は、東京都心から西南部の多摩地域に位置し、縄文時代の遺跡も多数確認されているように比較的古くから人間が住んでいる。農業を中心とした地域で、水稻栽培が盛んであったが、現在は水田の大半が宅地化されている。現在でも農業が

*人文学部 映像コミュニケーション学科

おこなわれ、中心となるものは野菜類やナシ、ブドウなどの果物類である。特に明治時代以降盛んに栽培されるようになったナシは多摩川梨として名産地の一つとして知られている。

人口の構成は、古くからの集落がある市の東・北部の大丸、東長沼、押立、矢野口、百村、また南部の坂浜、平尾に集中していた。その後、1988年以降、市の西部の多摩ニュータウン地域に、向陽台、長峰、若葉台という地名が付けられ入居が始まり、この地域の近年急速の増加している。平成25年10月1日現在では、矢野口、東長沼、大丸、百村、坂浜、平尾、押立地域の合計で、60,853人であり、一方、向陽台、長峰、若葉台地域の合計では26,000人で、約2.34倍の差があるが、それぞれの地域の人口の伸び率を見てみると、この十年間（平成14年と平成24年）では、矢野口、東長沼、大丸、百村、坂浜、平尾、押立地域で、52,670人から58,661人で111.4%の伸びであった。一方、向陽台、長峰、若葉台地域では15,838人から25,613人で161.7%となっており、この地域の人口増が著しいことが見て取れる。図1に、平成14年を100としたときの10年間の伸び率を示した。

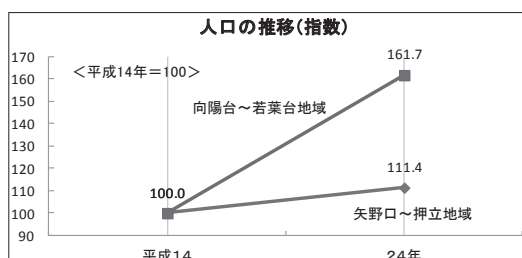


図1：人口の推移（矢野口、東長沼、大丸、百村、坂浜、平尾、押立地域と、向陽台、長峰、若葉台地域の比較）

次に、宅地、田、畑、山林の地目別土地面積の変化を平成13年と平成23年で見ると、平成13年では428.6ha、21.2ha、146.6ha、240.3ha、平成23年では501.3ha、10.7ha、136.1ha、

230.5haとなっている。つまり、この十年を比較すると宅地が117.0%と増加にあるものの、その他の田（50.5%）、畑（92.8%）、山林（95.9%）の地目別土地面積は軒並み減少傾向にある。図2に、平成13年を100としたときの10年間の変化を示した。

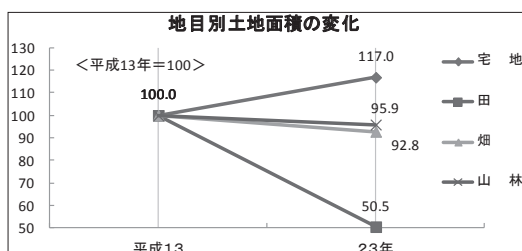


図2：地目別土地面積の変化（宅地、田、畑、山林の比較）

これらの傾向は、産業大分類別就業者数の推移からもわかるように、平成7年と平成17年の比較を行ってみると、第1次産業（農業などに従事）では623人から574人へ92.1%、第2次産業（製造業などに従事）では9,973人から8,207人へ82.3%と減少している。しかしながら、第3次産業（運輸、商業、金融、公務、その他のサービス業に従事）では22,503人から27,243人へ121.1%と増加している。人口の変化のこれらの状況は今後も続く予想される。図3に、平成7年を100としたときの10年間の変化を示した。

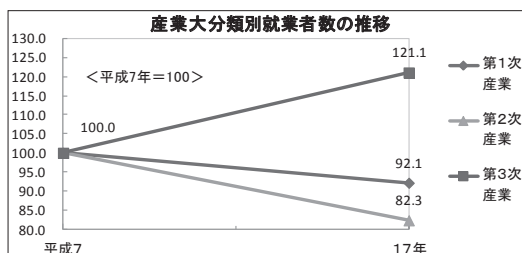


図3：産業大分類別就業者数の推移（第1次産業～第3次産業の比較）

つまり昔からの農村落に、多摩ニュータウン開発の波が押し寄せたために多くの人々や様々な暮らしが入り混じり、それらが混沌とせず上手く共存共栄

しているのが今の稲城の状況であるといえるのではない。

しかしながら、ここで問題となることは、地元へ根付いて農業や工業に従事してきた旧来からの主に第1次産業と第2次産業に従事してきた住民と新たに移住してきた主に第3次産業従事者住民との間に円滑なコミュニケーションの場の提供が求められていないことによるトラブルがある。そこで、稲城市役所は毎年10月に「いなぎ市民祭」を開催し、昨年度の実績では2日間で約4万9千の人を集めている。

2. -2) 活動（プロジェクト）の経緯

われわれが次に示すような事例に参加した経緯について説明を加えると、この地域でコミュニティの活性化をしてほしいという依頼があり、そのために学生を生かす取り組みを行ってきた。

たとえば、「I. JA東京みなみ稲城支店果実部梨協同組合」では、畑のすぐそばまで宅地化が進んだことによる騒音や農業に関する苦情が相次ぎ、その対策として農産品への理解と啓蒙活動を目的として2004年に依頼を受け現在まで活動を続けている。また、「II. 稲城市商工会工業部会」は、上記と同様に騒音問題や子供たちにもつづりの大切さを伝えたいという目的で2004年から活動を始め、I.とII.共に毎年10月に開催される「いなぎ市民祭」にも参加し、市民に地元の産業を知ってもらうことを目的に学生たちが、イベントのサポートや企画、ポスターや映像の展示などの活動を行っている。

「III. 稲城市、NPO 南山の自然を守り育てる会」は、10年以上にわたって開発か保存かで論争が続いていた稲城市南山の里山が、結局は住宅地として開発されることとなった。その一部が市民が自ら考え自分たちで管理するエリアマネジメント方式の自然公園として残される。その場所に稲城市からツリーデッキ制作指導を依頼され、学生とともに制作ワークショップに参加し、約9カ月掛けて公園のシン

ボルでもあるツリーデッキを制作した。他にNPO 南山の自然を守り育てる会の会員や稲城市で公募された市民も参加した。

「IV. 東京ヴェルディ1969フットボールクラブ」は、大学がこの団体と「パートナーシップ提携協定」をむすんでいるため、市民への広報活動の一環として市民へ親しみやすい視点に立った学生主体で制作するポスターの依頼を受けスタートした。

「V. スポーツ祭東京2013（立川市）」は、立川市の依頼を受け、広報ボランティアとしてこの大会に参加した2012年のリハーサル大会から本大会までの、およそ15ヶ月にわたって映像撮影で活動した。撮影した素材を編集して、立川市の広報映像として仕上げていく。

上記のことから、すべての事例が地域住民とのコミュニケーションの場を取り持つ役が大学に求められていることに他ならない。

3. 活動（プロジェクト）事例

映像コミュニケーション学科では、特長である人の感性に訴える視覚デザイン、具体的には映像やポスター、チラシなどのメディアを通じて、一般市民への広報を目的に活動を行ってきた。活動内容は、次の表1にまとめて提示した。

表1：映像コミュニケーション学科が関わってきた活動（プロジェクト）内容

No.	地域	主な依頼先（団体）/ ターゲット	活動期間	主な内容	参加学生
I.	東京都稲城市	JA東京みなみ稲城支店果実部梨協同組合 / 一般市民	2004 年（現在に至る）	農業団体との協働事業 稲城市の特産品である梨の生産を理解してもらうことを目的に、市民とりわけ子供に対しての広報活動としてスタートした。	2004 年当初からの数年は、教職課程を希望した学生に子供と触れ合う機会を増やす目的で 10 名前後から始まり、2008 年度からは授業の一環として 2 年生を中心に 40 名程度が参加。主にポスターと映像を制作し、毎年 10 月に開催される「いなぎ市民祭」の会場で展示し、さらに、子供たちが作るおもちゃ作りの補助を行っている。
II.	東京都稲城市	稲城市商工会工業部会 / 一般市民	2004 年（現在に至る）	工業団体との協働事業 子どもたちに地元の産業を知ってもらうことを目的に、理科離れを少しでも食い止めたという団体からの要請でスタートした。	
III.	東京都稲城市	稲城市、NPO 南山の自然を守り育てる会 / 一般市民	2012 年	稲城市の南側に広がる南山地域で大規模な宅地開発を行っている。その一部に樹木を残し、新しい里山のあり方を模索する活動において稲城市から活動への協力依頼がありスタートした。	空間造形学科の学生がツリーハウスの製作に 5 名前後が参加し、映像コミュニケーション学科の学生は写真撮影の 2 名が参加した。
IV.	東京都稲城市周辺	東京ヴェルディ 1969 フットボールクラブ / 一般市民	2010 年（現在に至る）	大学がこの団体と、「パートナーシップ提携協定」をむすんでいるため、市民への広報活動の一環として学生主体で制作するポスターの依頼を受けスタートした。	毎年、5 名前後が参加。
V.	東京都立川市	スポーツ祭東京 2013（立川市） / 一般市民	2012 年（現在に至る）	立川市より市民に向けた衆知と広報及び記録と報告のための映像制作の依頼を受けスタートした。	当初からボランティア活動として、10 名前後が活動。

なお、上記「Ⅲ. 稲城市、NPO 南山の自然を守り育てる会」の事例は、平成 22 年度からの科学研究費補助金*1) による研究の一環である。

4. 活動の状況及び成果

近年（1～2年以内）におけるこれまでの活動の状況や広報で使ったポスターなどの成果を図4～図17に提示した。



図4：ナシ農家への取材



図5：ナシ広報用のポスター例

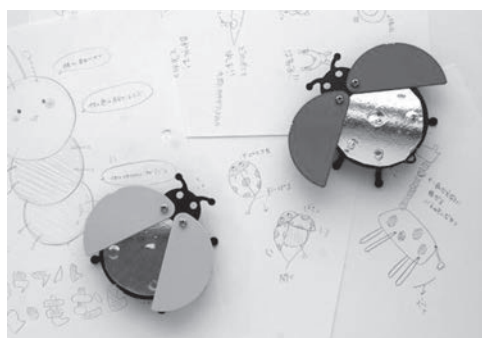


図6：「いなぎ市民祭」ものづくりコーナー用のアイデアスケッチ例



図7：「いなぎ市民祭」工業部会よりのレクチャー



図8：「いなぎ市民祭」ものづくりコーナーに参加した子供たちへの指導



図9：「いなぎ市民祭」ものづくりコーナー宣伝用ポスター



図 10: 工業部会の仕事紹介ポスター



図 13: 稲城市南山ツリーハウスの製作
(アッパーデッキ)



図 11: 「いなぎ市民祭」でのポスター展示



図 14: 東京ヴェルディ・サッカー教室取材



図 12: 稲城市南山ツリーハウスの製作 (塗装)



図 15: 東京ヴェルディ試合案内 (大学掲示用)
ポスター



図 16：スポーツ祭東京 2013 取材風景



図 17：スポーツ祭東京 2013 スタッフ集合

5. 参加学生の意識調査結果

質問項目

- 1) どのようなきっかけで今回の活動（プロジェクト）に参加しましたか？
- 2) 活動や制作の過程で、大変だった点と楽しかった点があれば教えてください。
- 3) 活動や制作に参加して、始める前の気持ちと実際に出来上がった後の気持はどの様になりましたかあれば教えてください。
- 4) 最後に今回の活動（プロジェクト）について感じることや思うことがあれば自由に書いてください。

事例 1 【JA東京みなみ稲城支店果実部梨協同組合】

質問	回答
1)	・基礎ゼミの授業がきっかけです。
2)	<p>●大変だった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影した日が6月の中旬でとても蒸し暑かったこと。 ・グループでの製作による話し合いでの若干のいざこざ。 ・素材がなかなか集まらず、スケジュールに余裕が持てなかった。 ・当初の100人の計画が集まらずに大きさや割合の変更があつて大変だった。 <p>●楽しかった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像の編集で、難しかったり大変な作業だったものの、それが出来上がったとき。 ・撮影が楽しかった。稲城の梨農家の方々と少しでもお喋りし、授業を通して関わることができてよかった。 ・稲城市が身近になった。 ・農業部会の皆さんとお話できたことはとても楽しかった。 ・稲城の梨のブランドを知れたのは良かった。
3)	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影を行い、それまでのものの見方が変わった。ものを大事にしようと改めて思った。 ・始める前は農家さん 100 人を撮影するとはどういうことかわからなかったが、出来上がりを見ると、一人ひとりの紹介は短くなってしまうが見ていてテンポのよい動画になった。 ・他人と作品を作ることに少し抵抗がありました。自分とチームの表現の仕方が合わなかったらどうしようと不安だったからです。作っていくうちに合わない部分も出てきましたが、自分では考えつかな

	<p>いようなアイデアだったり、お互いに意見を出し合って作っていくことは自分が思っていたよりも楽しく勉強になりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほんやりしたイメージが作品としてくっきり形にできたことがとてもうれしかったです。 ・始める前は短期間でポスターも映像も完成させなければならないので大変だと思っていたが、作った後ではポスターも納得のいく出来だったし、映像もグループで協力して完成させられてすごく良かったと思った。 ・素材が少なく苦労しましたが、出来上がったときには達成感を得られました。 ・初めイメージも分からないし、つかめなくて、正直何をやっていいのか分からない時期もありましたが、ポスター案を考えたり、撮影に実際に行ったりして、現実感が増すととても楽しく取り組めた。
4)	<ul style="list-style-type: none"> ・編集作業で、自分が知らなかった設定の方法などもグループワークによってわかったりすることができた。 ・授業以外の時間をもっと使って、さらに内容の濃い活動にすべきだったと感じた。 ・多くの人の目に触れる作品を作ることの責任を感じた。 ・アイデアが採用されてうれしかった。 ・作品を作るときに「誰に見せるのか」も大事だと思った。 ・完成時に達成感があった。 ・期間内に制作することの大変さ。 ・メイキングの写真をみると笑顔の写真も多くて、楽しく作業できてよかった。 ・朝の早い時間に農業部会の皆さんに来ていただいたり、学生の撮影を考えたり、スケジュールの調整が大変だったろうと思います。でも多くの人が学生と協力してポスターやCMを作れたことは良い経験になったと思いました。

【事例2 稲城市商工会工業部会】

質問	回答
1)	・基礎ゼミの授業で参加することになりました。
2)	<p>●大変だった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場の方が話されている内容を全て書き留めた作業。 ・思っていたような画が撮れなかったり聞きたいことを十分に質問できなかったり、自分の準備不足な点が多いことに気づかされました。 ・取材させてもらっている方々に、もう一步踏み込んで話しが出来るように次回の取材では多くの質問や製作物のレイアウトをよく考えて臨みたいと意欲がわきました。 <p>●楽しかった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像と実際、撮影に向かって目にしたものの違い。(工場の雰囲気など) ・工場のこと以外の話も聞けたこと。 ・ばらばらの素材をポスターの形にまとめる作業。 ・みんなのアイデアが聞けた。
3)	<ul style="list-style-type: none"> ・工場の取材など最初は全く想像がつかなかったが、カメラの撮り方や編集の作業で学べたことがたくさんあった。 ・始める前は機械と人を適当に配置して写せばいいかと思っていたが、取材や撮影をしていくうちに「これを見せたい!」とか「この話はたくさんの人に聞いてほしいな」と思うようになり、適当ではなくなった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・始まる前はぼんやりとしたイメージしかなかったが、工業部会の方たちと関わりお話を聞いているうちに稲城という町がどんなところなのか、何を掲げているのか、ということがわかりはじめ、稲城には他にはない魅力があることを知りました。 ・気楽な気持ちから、製作の難しさや大変さを実感した。
4)	<ul style="list-style-type: none"> ・見たことがない世界を知ることができた。 ・実際の工場へ行って現場の雰囲気や空気を感じることができた。 ・大学がある稲城について、今まではほとんど知らないでいたことに今更ながら驚いています。こんな風に稲城に根付いている技術や人々のことを知って、稲城のより多くのことをもっと外に発信していきたいと思いました。

【事例3 NPO 南山の自然を守り育てる会及び南山土地企画整理組合】

質問	回答
1)	・ゼミの授業の一環として。
2)	<p>●大変だったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い年齢層の方々（大人～子供、プロ～素人まで）が参加していたので、役割分担が大変でした。 ・なかなか意見のまとまらないデザイン決め。 ・コンセプトやデザイン設定。慣れない工具の使用。暑い時期での外作業。 <p>●楽しかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同生活、制作物の完成による達成感 ・今までいろいろ製作してきた中で一番規模の大きい制作物だったので、やりがいがありました。 ・1人での作業だと大変ですが、複数集まるとの作業はチームで作り上げたという連帯感も生まれた。終了してからはスタートからの全ての過程が楽しかったと思えた。 ・みんなで、一つの物を完成されるという達成感が一番うれしかったです。
3)	<ul style="list-style-type: none"> ・始める前：制作意欲の高揚感、無事に出来上がるのか、また、周囲の人に受け入れてもらえるかという不安がありました。 ・始めた後：問題が発生したり、作業行き詰ったことを試行錯誤してクリアしていき、皆でやり遂げたという達成感を得たことにより不安が次への自信へと繋がった。 ・始める前は設営場所にもあまり入ったこともなく、関心も薄かったと思います。実際に現地に踏み入り、測量したりする過程で、こんなところにツリーハウスが建てられるのかと不安はありました。最初の設計通りとは行かず、紆余曲折ありましたが何とか完成し、達成感もひとしおでした。 ・一番の変化は、それまで無関心だった林に気を掛けるようになったこと。ツリーハウスの状態が気掛かりだったこともあります。メンバーの憩いの場所にもなったり、いろいろな人が見物に来てくれたりもしました。ちょっと大げさですが…まるで我が子のように見守っていました。
4)	<ul style="list-style-type: none"> ・私達が作ったツリーデッキを通して、イベントが行われていますが、他の里山でもこのような企画を広げられればいいのではないかと思います。 ・人と自然が共存しあうことでマイナスの部分も出てくるかもしれませんが、人が自然の中で過ごすことは環境を肌で感じることができることだと思うので、ツリーハウスのような場所は必要だと思います。 ・人は人を取り巻く環境に居心地の良さを求めていると思う。例えば、自分の家ならきれいな状態を保って住みやすくなりたいと思うし、お気に入りの家具や照明などを置いてよりよいものにしようと思うと考える。私はツリーハウス制作を通して一番に感じたのは、“自然の中にいる心地よさ”だと思う。自然の中からもその後ツリーハウスがどうなっているのかこっそり見に行ったりしていた。私のようにより多くの人々が自然に触れることで、自然に触れる心地の良さが多くの人に伝わるのではと思う。心地よい空間を

	<p>このまま保ちたい、と共感する声もきっと多いと思う。そしてその声が環境保全活動等の動きにもつながっていきけるのではないかと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ツリーハウスを制作する、というのは自然と触れ合うことでもあります。里山の意味を調べたら「人里近くにある、生活に結びついた山や森林。薪（たきぎ）や山菜の採取などに利用される。人の手が入ることで生態系のつりあいがとれている地域を指し、山林に隣接する農地と集落を含めて」という意味でしたので、自然を大切に、共存してゆく、という気持ちも生まれると思うので大変有意義な活動だと思います。大学時代にこのようなことを経験できたことは今後の大きな財産になると思います。
--	--

【事例4 東京ヴェルディ 1969 フットボールクラブ】

質問	回答
1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブ（CAC）活動から。 ・ 先輩からの引き継いで。
2)	<ul style="list-style-type: none"> ● 大変だった点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 細かい点の直しが多かった。 ・ 意思疎通がうまくいかず、何度もやり取りをした。 ・ 後輩への指導をしながらの作業。 ・ スケジュール通りに作業が進まない。 ・ 授業との両立が難しかった。 ・ 後輩をまとめて、育てる大変さ。 ・ 相手の要求に応えながらの作業。 ● 楽しかった点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の作ったものを街で目にしたこと。 ・ 学生に自由に作成を任せてくれたこと。 ・ ラフ案をいくつも作ることを許可してくれたこと。
3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ（サッカー）に興味を持つようになったこと。 ・ 自分のスキルと共に、やらなくてはならない最低限の基準を自分なりに持てるようになったこと。 ・ やれる自信と責任感を持てたこと。 ・ チェックが入ることによる緊張感を持つことの重要さを感じることができたこと。
4)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生のうちに企業と仕事（作業）ができたこと。 ・ 計画の大切さ。 ・ 多くの人と関わることで仕事動く大切さを学んだこと。 ・ チーム内をまとめながら作業を進める大切さを知ったこと。 ・ 人に迷惑をかけない大切さを改めて感じたこと。

【事例5 スポーツ祭東京 2013（立川市）】

質問	回答
1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生からのお誘い。 ・ 教員や友人に誘われて。 ・ 先生に内容を聞き、「やってみないか」と誘われて参加しました。 ・ 学科の勉強になると考えたのと、面白そうだったから。

	・教員や友人からの勧め。
2)	<ul style="list-style-type: none"> ●大変だった点 ・周りの状況を見て、どこをどういう風に撮影するのかを考えること。 ・いろいろな人に声をかける。 ・自ら考えて動き前に出ること。 ●楽しかった点 ・普段は見れないスポーツが近くで見ることができたこと。 ・選手のプレーしている姿を近くで見られたこと。 ・ボランティアに参加しなければ経験できないことができた。 ・自分たちの活動が立川市のためになったこと。 ・いろいろな方々をお話できて、その時「参加して良かったな」と感じました。 ・たくさんの方々と触れ合えたこと。
3)	<ul style="list-style-type: none"> ・面倒臭いと思うこともありましたが、一生懸命な選手の姿や応援している人たちの姿を見て、この人たちの姿を映像や写真にきちんと納めたいと思えるようになり、頑張ろうとやる気になりました。 ・撮影を重ねていくごとに出来上がりがどんなものになるかを想像しながら撮るようになった。 ・スポーツに全く興味がなかったが少しずつ興味がわきました。
4)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人が経験できないようなことを体験できてよかった。 ・ボランティアがなければ国体の存在も知らなかったと思うので、参加できて楽しかったです。 ・人と人との関わりの大切さ。 ・他の人々と話すことや、撮影許可をいただくことの難しさなどを学びました。 ・何事も協力が大切だと思いました。 ・一つのものを作り上げるには、たくさんの人が関わっていることを学びました。

6. まとめと考察

一般的に、大学が地域社会と関わる活動には、さまざまなものが想定される。たとえば、内閣官房都市再生本部（2005）では、「都市再生プロジェクト（第十次決定）」のテーマとして「大学と地域の連携協働による都市再生推進」を掲げている。（内閣官房都市再生本部、2005*2）具体的な活動としては、「1. 大学と地域との連携の強化によるまちづくりの取り組みの推進」、「2. 実践的な社会人教育の推進や社会活動への参加促進」、「3. 留学生・外国人研究者などのための環境整備や市民とのふれあい・交流促進」、「4. 市民に開かれた大学、連続した緑地の確保などまちづくりと調和した大学キャンパスの形成」、「5. まちづくりへの取り組みに当たっての大学と地域との連携を促進するための体制整備」の5項目をあげている。

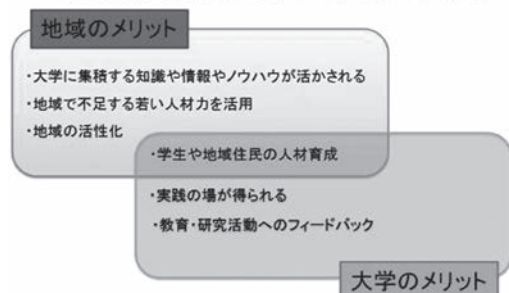
近年、過疎化や高齢化に加え住民ニーズの多様化や複雑化により地域の課題も多岐に渡り、更なる人材育成が求められている。地域自治体では、

地域の活性化のため、産業の分野だけでなく、まちづくり、福祉等多くの分野で、地域の大学等の高等教育機関と連携し、多彩な事業を展開するようになっている。

そのような地域に若い人材が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することは、若者に地域への理解を促し、地域で活躍する人材として育成することにつながる。これらは同時に地域に気づきを促し、地域住民をはじめとする人材育成にも資するということから、「域学連携」地域づくり活動*3)の取り組みが増加する傾向にある。

こうした取り組みは、地域（地方自治体）及び大学（大学生・教員）双方にメリットがあり、さらなる充実が望まれていることから、連携事例の収集・整理、そのノウハウの確立、継続的に実施できる仕組み作りが求められている。

地域と大学にとってのメリット



(図 18) 出典：「地域と大学にとってのメリット」
総務省 HP* 4) より

一方、大学は以前にも増して大学の立地する「地域」を否応なしに意識せざるをえなくなった。地域社会における大学の役割は、その地域に「大学は何ができるのか」ということである。地域に対して自らをアピールしその存在意義を理解してもらおうとする行為はむしろ自然なことであり、社会的貢献や地域との連携等の「地域を意識した大学の具体的な姿を見せるような関わり」がより一層重要になってくる。つまり、従来のような「教育」「研究」（は勿論のこと）「社会貢献・地域連携」の重要度は増してきている。具体的な「社会貢献」については、次のようなこと考えられる。

● 学生を主体とした地域貢献：インターンシップや地域交流事業も含んで学生に現場を体験させる学習機会の提供。全国生涯学習市町村協議会のアンケート* 5) によると自治体等が大学に期待する地域貢献の第 1 位は「学生の社会貢献活動（ボランティア活動等）の推進」で、学生に対する期待がかなり大きいことである。つまり地域は学生という若い力に強い期待を寄せているのであるから地域と大学がお互いに期待を共有できる可能性があると考えられる。

地域が大学に求めている地域貢献の役割が、単なる「アドバイザー（大学教員）」よりむしろ「サポーター／パートナー（学生）」であること。つまり学生

に地域づくりのサポーター／パートナーとしての期待がされている。問題は、地域貢献や交流の資源としての学生への高い期待を、大学自身が必ずしも把握していないことである。大学は、地域貢献のための人的資源として教員をイメージしがちだが、学生という資源も同等あるいはそれ以上の期待を地域から集めているという事実を受け止めることが重要であり、「大学が地域へ出向く」という方向性が求められていることである。

ここまでの問題点を整理すると、総務省の「地域と大学にとってのメリット」で述べている『学生や地域住民の人材育成』の具体には何を人材育成の成果とするのかという点である。これは学生の意識調査結果から活動の中で何を学んだかという調査からも、「人の手配や日程の調整の大変さでした」や「各自が言いたいことを言って、なかなか進まなかったことがあること」などの意見があったように、実際に活動に参加して、ある制作物を作成する個人的な作業よりさらに重要な点は人をどのように調整して動かすことができるかというコーディネートする力が求められることに気づく。地域側でもない行政側でもない視点を持つ大学が継続的に行う活動によって、公益的な視点を持った住民や学生、あるいははコーディネート出来る住民や学生の育成が求められている。

なお、成果の一つとして、3年次に稲城市商工会工業部会のインターンシップに参加し、2012 年 3 月の卒業時にその企業に就職できたことも挙げられる。

今後の課題として、継続した取り組みを行いより実りのある地域の連携や社会貢献に寄与することを検討したい。

参考文献)

* 1) 平成 22 年度～平成 24 年度科学研究費助成金（基盤研究（C））課題番号 22500868「仮設的な住居の制作体験を通じた里山の再評価のた

めの実証的研究」

化及び地域の人材育成に資する活動」を指す。

* 2) 内閣官房 都市再生本部事務局ホームページ

<http://www.toshisaisei.go.jp/03project/dail10/kettei.html>

* 4) 総務省ホームページ

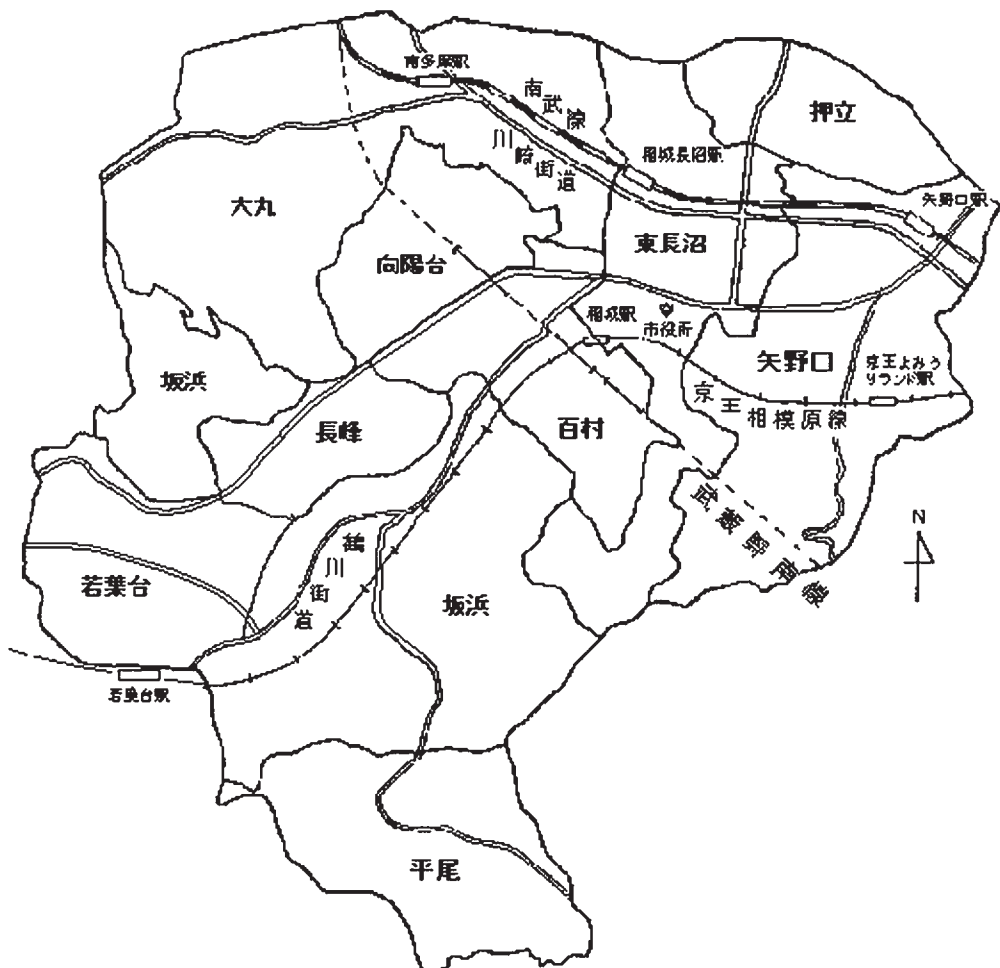
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/ikigakurenkei.html

* 3) 「域学連携」地域づくり活動とは、総務省が提唱する「大学生と大学教員が地域の現場に入り、地域の住民やNPO等とともに、地域の課題解決又は地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性

* 5) 全国生涯学習市町村協議会（2004）「大学と地域の連携によるまちづくりのあり方に関する調査報告書」

【Appendix】（出典：稲城市役所ホームページ <http://www.city.inagi.tokyo.jp/>）

1. 稲城市全図



江戸期には、市の東・北部に大丸村、長沼村（明治期以降は東長沼）、押立村、矢野口村、百村が、南部には坂浜村、平尾村の村落が点在し

ていた。その後、1988 年以降、市の西部の多摩ニュータウン地域に、向陽台、長峰、若葉台という地名が付けられ入居が始まった。

2. 世帯数及び人口の推移

多摩ニュータウン地区等の住宅開発に伴って人口の増加傾向がみられる。平成 25 年 10 月 1 日現在の人口は、86,195 人である。（数字は、住民基本台帳における人口）

単位：増加率％
（各年 1 月 1 日（各年 1 月 1 日現在））

年次	世帯数	人口			増加人口	対前年比 増加率	1 世帯当 り 人員	1km ² 当り 人口密度
		総数	男	女				
明治 32 年	...	4,322	2,203	2,119	-	-	-	...
大正 7 年	639	4,474	2,258	2,216	-	-	7.00	...
昭和 30 年	1,956	10,188	5,081	5,107	166	1.7	5.21	578
40	5,111	17,502	8,953	8,549	2,268	14.9	3.42	994
50	13,220	42,772	22,160	20,612	1,350	3.3	3.24	2,429
60	15,963	49,722	25,564	24,158	374	0.8	3.11	2,824
61	16,304	50,291	25,778	24,513	574	1.2	3.08	2,856
62	16,882	51,341	26,261	25,080	1,045	2.1	3.04	2,915
63	17,424	51,984	26,641	25,343	643	1.3	2.98	2,952
64	18,279	53,642	27,513	26,129	1,658	3.2	2.93	3,046
平成 2 年	19,569	56,502	29,019	27,483	2,860	5.3	2.89	3,153
3	20,453	58,103	29,947	28,156	1,601	2.8	2.84	3,242
4	21,185	58,774	30,358	28,416	671	1.2	2.77	3,271
5	22,400	60,728	31,534	29,194	1,954	3.3	2.71	3,379
6	23,088	61,656	32,003	29,653	928	1.5	2.67	3,431
7	23,070	61,465	31,790	29,675	△ 191	△ 0.3	2.66	3,420
8	23,629	62,172	32,033	30,139	707	1.2	2.63	3,460
9	24,281	63,359	32,564	30,795	1,187	1.9	2.61	3,526
10	24,829	64,007	32,914	31,093	648	1.0	2.58	3,562
11	25,496	64,960	33,379	31,581	953	1.4	2.55	3,615
12	26,378	66,842	34,375	32,467	1,882	2.9	2.53	3,720
13	27,194	68,508	35,156	33,352	1,666	2.5	2.52	3,812
14	28,027	69,735	35,774	33,961	1,227	1.8	2.49	3,881
15	28,910	71,426	36,666	34,760	1,691	2.4	2.47	3,975
16	29,835	73,520	37,639	35,881	2,094	2.9	2.46	4,091
17	30,509	74,786	38,230	36,556	1,266	1.7	2.45	4,162
18	31,032	75,726	38,699	37,027	940	1.3	2.44	4,214
19	32,348	78,461	39,983	38,478	2,735	3.6	2.43	4,366

20	33,156	79,664	40,523	39,141	1,203	1.5	2.40	4,433
21	33,907	81,050	41,218	39,832	1,386	1.7	2.39	4,510
22	34,505	82,029	41,712	40,317	979	1.2	2.38	4,565
23	35,298	83,575	42,399	41,176	1,546	1.9	2.37	4,651
24	35,594	84,274	42,722	41,552	699	0.8	2.37	4,690

資料：生活環境部市民課（住民基本台帳・昭和 20 年以前は稲城町誌）（外国人登録者を除く）

3. 産業大分類別 15 歳以上就業者数の推移

（各年 10 月 1 日現在）

産業	昭和 60 年	平成2年	平成7年	平成 12 年	平成 17 年
総数	24,105	29,847	33,400	34,889	37,117
第1次産業	657	584	623	515	574
農業	653	581	619	514	571
林業	-	2	1	-	1
漁業	4	1	3	1	2
第2次産業	9,173	10,307	9,973	8,834	8,207
鉱業	8	6	5	8	4
建設業	2,412	3,111	3,623	3,233	3,174
製造業	6,753	7,190	6,345	5,593	5,029
第3次産業	14,194	18,758	22,503	24,602	27,243
電 気・ガス・熱供給・水道業	108	117	105	98	82
運輸・通信業	1,316	1,531	1,692	1,932	4,696
卸売・小売業	5,154	6,156	7,026	7,251	5,720
金融・保健業	708	1,104	1,255	1,189	1,353
不動産業	279	493	586	680	844
サービス業	5,873	8,489	10,865	12,508	13,439
公務(他の分類されないもの)	756	868	974	944	1,109
分類不能の産業	81	198	301	938	1,093

資料：国勢調査

4. 地目別土地面積

単位：ha、（ ）内は構成比 %
（各年 1 月 1 日現在）

年 次	総 数	宅 地	田	畑	山 林	その他
平成 12 年	1,797 (100.0)	423.0 (23.5)	22.2 (1.3)	147.8 (8.2)	240.1 (13.4)	963.9 (53.6)
13	1,797 (100.0)	428.6 (23.8)	21.2 (1.2)	146.6 (8.2)	240.3 (13.4)	960.3 (53.4)

14	1,797 (100.0)	437.6 (24.4)	20.1 (1.1)	144.0 (8.0)	239.5 (13.3)	955.8 (53.2)
15	1,797 (100.0)	440.8 (24.5)	18.7 (1.1)	142.7 (7.9)	236.5 (13.2)	958.3 (53.3)
16	1,797 (100.0)	447.7 (24.9)	17.3 (1.0)	140.3 (7.8)	236.4 (13.2)	955.3 (53.1)
17	1,797 (100.0)	456.4 (25.3)	15.4 (0.9)	141.2 (7.9)	233.8 (13.0)	950.2 (52.9)
18	1,797 (100.0)	463.8 (25.9)	14.7 (0.8)	140.2 (7.8)	236.1 (13.1)	942.2 (52.4)
19	1,797 (100.0)	492.1 (27.4)	14.4 (0.8)	138.9 (7.7)	234.8 (13.1)	916.8 (51.0)
20	1,797 (100.0)	457.6 (25.5)	14.2 (0.8)	137.6 (7.7)	233.4 (13.0)	954.4 (53.1)
21	1,797 (100.0)	492.3 (27.4)	12.6 (0.7)	137.6 (7.7)	232.3 (12.9)	922.2 (51.3)
22	1,797 (100.0)	495.9 (27.6)	11.0 (0.6)	136.9 (7.6)	231.0 (12.9)	922.2 (51.3)
23	1,797 (100.0)	501.3 (27.9)	10.7 (0.6)	136.1 (7.6)	230.5 (12.8)	918.4 (51.1)

資料：企画部課税課（固定資産概要調書）

5. 地域別世帯数及び人口の推移

（各年1月1日現在）

年次	矢野口		東長沼		大丸		百村		坂浜	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
平成 6 年	5,016	12,375	3,754	9,316	3,523	8,803	1,143	2,718	1,156	3,210
7	4,955	12,227	3,860	9,647	3,474	8,641	1,176	2,813	1,143	3,171
8	4,976	12,244	3,964	9,859	3,430	8,413	1,267	2,909	1,146	3,117
9	4,976	12,112	4,034	9,964	3,523	8,542	1,350	3,207	1,160	3,094
10	5,058	12,102	4,130	10,088	3,536	8,473	1,394	3,321	1,096	3,006
11	5,184	12,237	4,296	10,478	3,632	8,594	1,450	3,461	926	2,602
12	5,204	12,163	4,376	10,603	3,638	8,511	1,537	3,659	924	2,580
13	5,192	11,996	4,450	10,738	3,662	8,462	1,550	3,695	949	2,567
14	5,192	11,996	4,450	10,738	3,662	8,462	1,550	3,695	949	2,567
15	5,271	11,853	4,724	11,145	3,800	8,601	1,558	3,678	1,045	2,725
16	5,339	12,012	4,691	11,074	3,829	8,619	1,645	3,858	1,065	2,729
17	5,510	12,468	4,775	11,122	3,855	8,601	1,693	3,972	1,083	2,731
18	5,716	12,870	4,782	11,137	3,883	8,576	1,722	4,030	1,088	2,723
19	5,926	13,258	4,932	11,324	3,834	8,345	1,782	4,103	1,100	2,721
20	6,328	13,967	5,010	11,341	3,917	8,422	1,830	4,229	1,108	2,701

21	6,729	14,819	5,073	11,452	3,917	8,398	1,865	4,220	1,135	2,756
22	7,011	15,408	5,077	11,467	3,961	8,415	1,918	4,325	1,137	2,729
23	7,051	15,534	5,107	11,497	4,054	8,531	1,950	4,410	1,178	2,812
24	7,116	15,722	5,151	11,582	4,023	8,495	1,967	4,429	1,201	2,805

年次	平尾		押立		向陽台		長峰		若葉台	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
平成 6 年	4,471	12,544	1,517	4,203	2,508	8,487	-	-	-	-
7	4,487	12,357	1,497	4,144	2,478	8,465	-	-	-	-
8	4,486	12,032	1,486	4,045	2,409	8,166	465	1,387	-	-
9	4,427	11,629	1,568	4,144	2,327	7,810	916	2,857	-	-
10	4,561	11,537	1,561	4,147	2,406	7,954	1,087	3,379	-	-
11	4,620	11,406	1,576	4,169	2,467	8,001	1,179	3,657	166	355
12	4,633	11,297	1,615	4,194	2,544	8,123	1,235	3,852	664	1,860
13	4,614	10,991	1,656	4,221	2,563	8,103	1,356	4,179	1,205	3,556
14	4,614	10,991	1,656	4,221	2,563	8,103	1,356	4,179	1,205	3,556
15	4,753	10,715	1,735	4,295	2,592	7,907	1,435	4,382	1,997	6,125
16	4,969	11,007	1,717	4,224	2,557	7,742	1,423	4,330	2,600	7,925
17	5,029	10,973	1,731	4,217	2,546	7,630	1,465	4,426	2,822	8,646
18	5,085	10,938	1,741	4,251	2,549	7,530	1,512	4,544	2,954	9,127
19	5,136	10,963	1,771	4,258	3,193	9,207	1,521	4,518	3,153	9,764
20	5,160	10,923	1,821	4,349	3,259	9,295	1,533	4,526	3,190	9,911
21	5,165	10,860	1,855	4,412	3,298	9,285	1,524	4,453	3,346	10,395
22	5,220	10,956	1,893	4,454	3,345	9,305	1,552	4,466	3,391	10,504
23	5,337	11,106	1,922	4,486	3,391	9,349	1,580	4,492	3,728	11,358
24	5,357	11,145	1,896	4,483	3,486	9,535	1,593	4,497	3,804	11,581

資料：生活環境部市民課（住民基本台帳）

6. 稲城市における世帯数集計表（平成 25 年 10 月 1 日現在）

（町丁別の数字は、住民基本台帳における世帯数

町丁名	世帯数			
	日本人のみ世帯	外国人のみ世帯	混合世帯	合計
矢野口	7,224	62	67	7,353
東長沼	5,197	93	38	5,328
大丸	4,167	48	27	4,242
百村	2,032	24	13	2,069
坂浜	1,217	12	13	1,242
平尾	312	0	1	313
平尾一丁目	1,144	26	13	1,183

平尾二丁目	1,407	13	13	1,433
平尾三丁目	2,500	31	20	2,551
(平尾地区小計)	(5,363)	(70)	(47)	(5,480)
押立	1,912	11	24	1,947
向陽台一丁目	152	1	1	154
向陽台二丁目	250	0	4	254
向陽台三丁目	215	0	1	216
向陽台四丁目	943	13	20	976
向陽台五丁目	591	5	8	604
向陽台六丁目	1,329	16	19	1,364
(向陽台地区小計)	(3,480)	(35)	(53)	(3,568)
長峰一丁目	113	1	1	115
長峰二丁目	354	3	4	361
長峰三丁目	1,180	12	23	1,215
(長峰地区小計)	(1,647)	(16)	(28)	(1,691)
若葉台一丁目	1,208	6	15	1,229
若葉台二丁目	835	22	11	868
若葉台三丁目	909	6	5	920
若葉台四丁目	817	5	8	830
(若葉台地区小計)	(3,769)	(39)	(39)	(3,847)
総合計	36,008	410	349	36,767

7. 稲城市における人口集計表（平成 25 年 10 月 1 日現在）

（町丁別の数字は、住民基本台帳における世帯数）

町丁名	日本人住民人口			外国人住民人口			総人口
	男性	女性	小計	男性	女性	小計	
矢野口	8,192	7,778	15,970	69	114	183	16,153
東長沼	6,057	5,572	11,629	85	87	172	11,801
大丸	4,569	4,127	8,696	57	54	111	8,807
百村	2,427	2,239	4,666	32	23	55	4,721
坂浜	1,462	1,363	2,825	18	13	31	2,856
平尾	299	358	657	1	0	1	658
平尾一丁目	1,347	1,337	2,684	34	21	55	2,739
平尾二丁目	1,479	1,637	3,116	14	18	32	3,148
平尾三丁目	2,317	2,367	4,684	33	40	73	4,757
(平尾地区小計)	(5,442)	(5,699)	(11,141)	(82)	(79)	(161)	(11,302)
押立	2,352	2,155	4,507	21	27	48	4,555
向陽台一丁目	204	218	422	0	3	3	425
向陽台二丁目	388	405	793	3	3	6	799

向陽台三丁目	259	279	538	0	1	1	539
向陽台四丁目	1,200	1,233	2,433	20	24	44	2,477
向陽台五丁目	756	791	1,547	12	6	18	1,565
向陽台六丁目	1,828	1,913	3,741	29	29	58	3,799
(向陽台地区小計)	(4,635)	(4,839)	(9,474)	(64)	(66)	(130)	(9,604)
長峰一丁目	194	188	382	2	3	5	387
長峰二丁目	521	524	1,045	8	8	16	1,061
長峰三丁目	1,525	1,652	3,177	26	31	57	3,234
(長峰地区小計)	(2,240)	(2,364)	(4,604)	(36)	(42)	(78)	(4,682)
若葉台一丁目	1,896	1,947	3,843	14	20	34	3,877
若葉台二丁目	1,213	1,231	2,444	27	24	51	2,495
若葉台三丁目	1,332	1,383	2,715	9	14	23	2,738
若葉台四丁目	1,272	1,316	2,588	7	9	16	2,604
(若葉台地区小計)	(5,713)	(5,877)	(11,590)	(57)	(67)	(124)	(11,714)
総合計	43,089	42,013	85,102	521	572	1,093	86,195